



inabe

inabe NAWITO

[inabe nauto]

毎日あたり前のように眩しい太陽が昇り、わたしたちの日々を暖かく照らす。

夕刻には山へと沈み行き、鈴鹿山脈の後縁が夕焼けで染まる一瞬の刻は、言葉にできないほど美しい。

そして、その後来る暗夜は、柔らかな月と星の光が導いてくれる。

いなべといえは……の問いに、多くの人がこの美しい「自然」を挙げる。

自然と共にあるわたしたちの暮らしが、さらに彩られ、満ち足りたものになるように。

これからもずっと、守り続けていけるように。春風に舞うカラフルなカケラが合わせり、

一枚の絵となるように、人と人がつながり、もっと素敵な「まち」に。

いなべの「今」を見つめ、考えるタブロイド紙、inabe NAWITO の新たなる船出だ。

このまちの未来のために。皆さんと共に歩み、つながり、共につくっていくことのできる媒体を目指す。

CREDIT

アートディレクション/デザイン: 北住尚己 (エコムクリエイション)
デザイン: 本瀬玄真 (エコムクリエイション), 山下佳苗 (grame design), 下村文香
写真: 浦田貴秀
表紙アートワーク: 川瀬知代, 間芝勇輔
本編イラスト: 間芝勇輔
テキスト制作: 山下佳苗 (grame design), 桑嶋幹人, 荒木寧美, 原玉美香 (グリーンクリエイティブいなべ)
プロデュース/発行: 荒木寧美, 原玉美香 (グリーンクリエイティブいなべ)
印刷: 共栄堂印刷
協力: 宇賀深観光協会
企画制作: グリーンクリエイティブいなべ
発行: いなべ市

inabe NAWITO 創刊号 2021年3月発行

inabe

inabe NAWITO

[inabe nauto]



inabe NOWTO — いなべナウト

先代がこのまちでつくりあげてきた、さまざまなもの・こと・とき。
そこにかけてきた想いを大切にし、今をしっかりと見据え、いなべ
の未来を皆さんと共に考えていきたい。

NOWTOは、NOW(今)とto(～へ)の造語。

「今」はいずれ過去となり、あたらしい未来は直ぐに訪れる。

未来へ向かう時、本誌がこれからの世代の人たちの「指標」となり
得るものになれば嬉しい。

にぎわいの森を核としたまちづくりが
はじまり、宇賀溪・農業公園の再整備、
SDGs未来都市選定など、いなべ市は、
まさに大航海時代へと突入した。

一方で、地域の中からもまちづくりの
主人公たちが次々と出現し、まちなか
で目覚ましい活躍を遂げている。

本誌では、官民を問わず、各取り組みと
その背後にある想いを整理し、過去や
歴史を振り返りながらさまざまな視点
で未来を想像し、「今」を見つめる。

そして、いなべを舞台に活躍している
人や、これから活躍の場を探す人に
とって、「今」のいなべを見渡すことが
できる「地域の窓」となるような媒体を
目指す。

創刊号では、SDGsの視点で見る、いな
べの「今」を特集する。

Contents

- 03 SDGsを紐解く
- 05 2030年—未来のいなべをつくる
- 07 「このまちで未来を描く」鼎談インタビュー
- 09 共感でつながる仲間づくりの場「妄想会議2020」振り返り
- 11 十四歳×NOWTO『わたしをつなぐもの』
- 13 今をしっかりと見据え、未来へ歩き出した人々 SENSE/OF/LIGHT

SDGs

を紐解く

FEEL THE WORLD from inabe

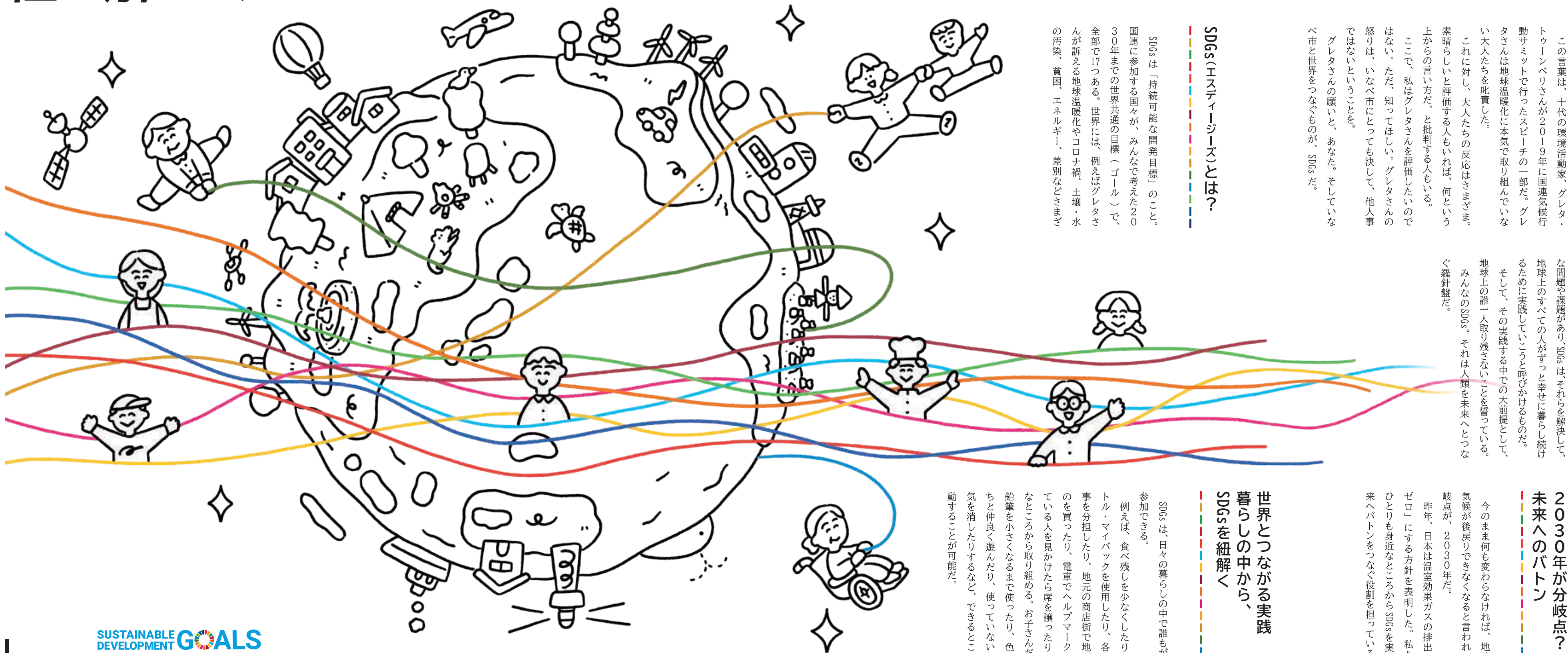
“We are in the beginning of a mass extinction, and all you can talk about is money, and fairy tales of eternal economic growth. How dare you!”

Greta Thunberg

「大量絶滅^{*}は始まっているのよ。それなのにあなたたちが話しているのは、お金のことと、永遠の経済発展というおとぎ話ばかり。よくもそんなことを平気でできるね！」

グレッタ・トゥーンベリ

※ある時期に大量の生物が同時に絶滅すること。地球ではかつて、恐竜など生物種の大量絶滅期が5度到来したとされ、グレッタさんは現在、6度目の大量絶滅期に入っている、と主張している。グレッタさんの他に科学者や研究者の中にも、現在、大量絶滅期に入っていて人類を含む全ての種が危機にさらされていると主張する人たちがいる。



この言葉は、十代の環境活動家、グレッタ・トゥーンベリさんが2019年に国連気候行動サミットで行ったスピーチの一部だ。グレッタさんは地球温暖化に本気で取り組んでいない大人たちを叱責した。

これに対し、大人たちの反応はさまざま。素晴らしいと評価する人もいれば、何という上からの言い方だ、と批判する人もいる。

ここで、私はグレッタさんを評価したいのではない。ただ、知ってほしい。グレッタさんの怒りは、いなべ市にとっても決して、他人事ではないということ。

グレッタさんの願いと、あなた。そしていなべ市と世界をつなぐものが、SDGsだ。

SDGs(エスディージーズ)とは？

SDGsは「持続可能な開発目標」のこと。国連に参加する国々が、みんなで考えた2030年までの世界共通の目標(ゴール)で、全部で17つある。世界には、例えばグレッタさんが訴える地球温暖化やコロナ禍、土壌・水の汚染、貧困、エネルギー、差別などさまざまな問題や課題があり、SDGsはそれらを解決して地球上のすべての人がずっと幸せに暮らし続けるために実践していくと呼びかけるものだ。

そして、その実践する中での大前提として、地球上の誰一人取り残さないことを誓っている。みんなのSDGs。それは人類を未来へとつなぐ羅針盤だ。

世界とつながる実践暮らしの中から、SDGsを紐解く

SDGsを紐解く

SDGsは、日々の暮らしの中で誰もが実践し、参加できる。

例えば、食べ残しを少なくしたり、マイボトル・マイバックを使用したり、各家庭の家事を分担したり、地元の商店街で地元産のものを買ったり、電車でヘルプマークを表示している人を見かけたら席を譲ったり、と身近なところから取り組める。お子さんだったら、鉛筆を小さくなるまで使ったり、色んな友だちと仲良く遊んだり、使っていない部屋の電気を消したりするなど、できることから行動することが可能だ。

2030年が分岐点？未来へのバトン

今のまま何も変わらなければ、地球全体の気候が後戻りできなくなると言われている分岐点が、2030年だ。

昨年、日本は温室効果ガスの排出を「実質ゼロ」にする方針を表明した。私たち一人ひとりも身近なところからSDGsを実践し、未来へバトンをつなぐ役割を担っている。

またすでに、各家庭でSDGsを実践していることもたくさんある。

例えば、農業をしているという人。食料自給率が低い日本において、農産物を供給する体制を守り、常に食料を確保することは重要だ。さらに、農業はそれ自体で、自然環境を守る役割がある。

近所の人たちや家族と仲良く過ごすこと。これもSDGsの実践と言える。隣の人と会話をし、健康状態を知り、困っていることはないか共有することで、地域の福祉は充実する。私にもできることがある。あなたにしか、できないことがある。一緒にやることでつながれる。微力でも、無力ではないのだから。

SDGsでつながる糸と意図。そのイトがカラフルに編み込まれ、地球を結ぶ紐になる

地球上の誰もが、ずっと幸せに暮らせればいいのに。

グレッタさんだけでなく、きっと、みんなが本気で願うことだ。しかし、私たちの多くは、いつしか慌ただしい日々の中で自分の暮らしを守ることに必死になり、気が付いたら、自分と世界のつながりをイメージできなくなってしまうがちな。

だから、皆さん。どうか、自分の指先を、よく見てほしい。

自分といなべ市と地球は、その指先から延びる1本の糸と意図でつながっている。そのイトは、今の暮らしを少し、環境や社会、経済などに配慮するだけで、きっとあなたにも見ることができる。

地球規模のつながりを感じられるイト。それが、SDGsだ。タテ、ヨコ、ナナメに編み込まれると、やがて地球を結ぶ色彩豊かで美しい紐になる。

だから、一人ひとりがSDGsを実践したら、それをぜひ関連するゴールのアイコンとともに、広く表明してみよう。

それぞれの取り組みや考え、価値観は違っても、SDGsはすべてを包み込んでくれて、私たちは同じ未来を目指すことができる。少しだけでもいい、一人ひとりが自分の暮らしや選択を変えるだけで、きっと地球は変わるのだから。

何かから始めようか？ あなたの考えを教えてください。

(文・グリーンクリエイティブいなべ 桑嶋 幹人)



SDGs
Sustainable Development Goals
Sustainable サスティナブル(持続可能な)
Development ディベロップメント(開発)
Goals ゴールズ(目標)

※今回の創刊号では、各ページで取り上げている内容が、どのGoalsに該当するかを、ページナンバーの横にカラー表記しています。



竜ヶ岳に流れる美瀑。力強い大自然がそのまま観光地に



吸い込まれそうな夜空の下、多くのキャンパーが憩う



宇賀溪キャンプ場整備後イメージ

この施設も、自然の機能をそのまま生かして自然を損なわないグリーンインフラとして整備。土砂災害防止、地震減災等に貢献する。このキャンプ場を運営するため、2021年、法人が立ち上がる。この宇賀溪をアウトドアのプラットフォームとして、さまざまな個人や団体、事業者、地域の人が関わり、資源を活用する場所になる予定だ。

非日常を醸し出す建造物やHyggeの世界観は、いなべのカジュアルなSDGsを牽引するスポットとしてすでに多数のメディアで注目を集めている。

この施設も、自然の機能をそのまま生かして自然を損なわないグリーンインフラとして整備。土砂災害防止、地震減災等に貢献する。このキャンプ場を運営するため、2021年、法人が立ち上がる。この宇賀溪をアウトドアのプラットフォームとして、さまざまな個人や団体、事業者、地域の人が関わり、資源を活用する場所になる予定だ。



広大な梅園が広がる農業公園に、多くの人が集まり休暇を過ごす。18haもの敷地面積を誇る福祉広場には四季折々の花が咲き、パークゴルフなどで楽しむこともできる

災害時に特に配慮が必要なのは、幼い子どもや障がいがある人、高齢者だけではない。いつもそばにいて、癒してくれるペットもそうだ。

もしも何かがあった時、家族であるペットにも優しいこの施設は、2021年度にオープン予定だ。

この整備は、低コストで環境に負荷の少ないインフラで、コロナ禍におけるニューノーマルのSDS旅行の基盤と位置付けることができる。

災害時に特に配慮が必要なのは、幼い子どもや障がいがある人、高齢者だけではない。いつもそばにいて、癒してくれるペットもそうだ。

宇賀溪の「今」

北欧の世界観と雄大な自然が呼応する
Nordisk Hygge Circles UGAKET

山辺ステージのSDGs先行事例が、Hygge（ヒュッゲ）をテーマにした宇賀溪キャンプ場の整備だ。

Hyggeとはデンマークの語源で、ほっと癒される心地よい時間や空間、その体験を通して得られる幸福感のことを指す。

鈴鹿国定公園の中にある宇賀溪は、いなべ市と東近江市の境、竜ヶ岳の山麓にある。長尾滝、五階滝、燕滝、魚止滝、白滝、御所滝といった個性ある滝は、雄大で神秘的だ。遊歩道も整備されており、装備をしっかりと整えて安全性を確保すれば大自然の中でゆったりとハイキングを楽しめる。木漏れ日揺れる登山道も魅力だ。

宇賀溪キャンプ場は、デンマークの有名アウトドアブランド「ノルデイスク」に連携して整備し、2021年度にオープン予定。

非日常を醸し出す建造物やHyggeの世界観は、いなべのカジュアルなSDGsを牽引するスポットとしてすでに多数のメディアで注目を集めている。

この施設も、自然の機能をそのまま生かして自然を損なわないグリーンインフラとして整備。土砂災害防止、地震減災等に貢献する。このキャンプ場を運営するため、2021年、法人が立ち上がる。この宇賀溪をアウトドアのプラットフォームとして、さまざまな個人や団体、事業者、地域の人が関わり、資源を活用する場所になる予定だ。

2030年——未来のいなべをつくる。

グリーンクリエイティブいなべ

SDGs

地域に眠ったままになっている資源をSDGsの目線で活用し、磨いて、多様な価値を生み出す。このまちづくりを、グリーンクリエイティブいなべと呼んでいる。その拠点となっているのが、にぎわいの森だ。

このまちづくりを後押しするようなコンセプトの多様な店舗が、市内に続々とオープンしている。

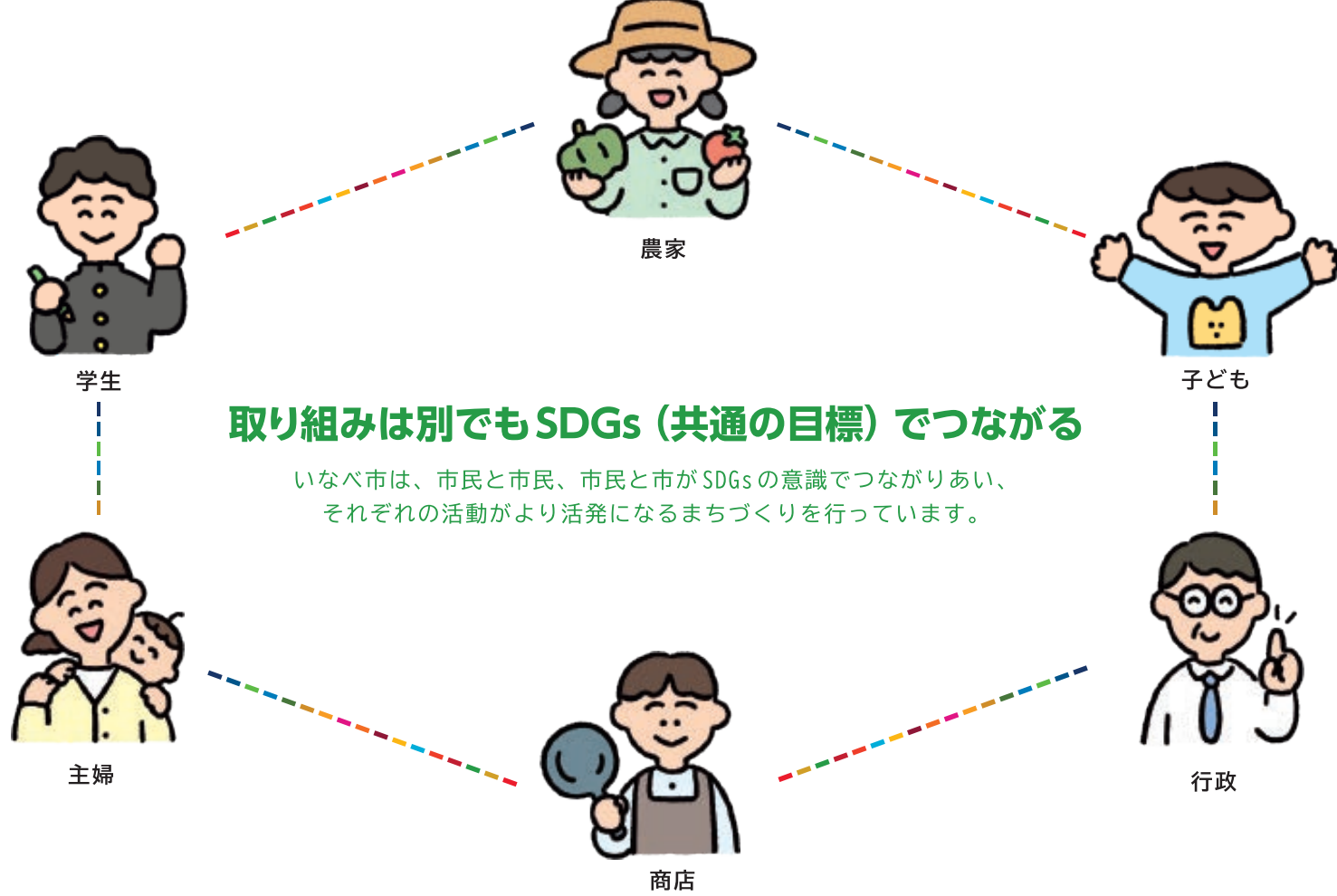
移住者を中心としたこれらの生業（なりわい）を営む皆さんは、いなべの豊かな自然と都市からの程よいアクセスに着目して、いなべならではの山の麓のライフスタイルを確立している。

この市全体の動きに引き寄せられるかのように、2018年に約43万人だったいなべ市の観光客数は、2019年には80万人を突破した。

そして、次の目指すステージは、山辺（※1）。山辺には、現在、未整備のままになった森が広がり、放置すると災害につながってしまう。だからSDGsの目線で、森林や自然の機能をそのままく使ったグリーンインフラ（※2）という発想でカジュアル（※3）に整備していきたい。

そして今、世界が直面するコロナ禍。いなべ市の目指すまちづくりは、この新型コロナウイルスと共生するニューノーマル（新様式、新しい日常）にも合致する。その先へ、どうか、あなたも一緒に。

いなべSDGsの効果（イメージ）



取り組みは別でもSDGs（共通の目標）でつながる

いなべ市は、市民と市民、市民と市がSDGsの意識でつながりあい、それぞれの活動がより活発になるまちづくりを行っています。

行政事業の紹介

市の多くの事業は、SDGs達成に貢献しています。	楽器寄附ふさと納税事業 休眠楽器の寄附で吹奏楽部の活動が継続	こんにちは赤ちゃん訪問事業 未来を担う赤ちゃんの成長に保健師が関わる
---------------------------------	---	---

いなべ市は2020年7月、内閣府からSDGs未来都市と東海地区初となる自治体SDGsモデル事業（※4）に選定された。市の事業を通してSDGsを推進していくほか、市民の皆さん、地域の自治会や企業、商店、団体、小中学校、高校などと連携し、2030年に誰もが幸せになれる市を目指す。

※1 山の麓、鎌倉湘南の海辺から連想、関連付けるイメージとして、「山辺」という言葉を用いる。里山よりは広いイメージで、視覚的に山の存在を強く感じられる場所を指す。

※2 いなべ市では未活用の森林や自然の機能をうまく利用した「にぎわいの森」をシンボルとする商業・観光交流拠点整備を指す。自然のエネルギーを活用し、CO2の削減に貢献している。また、土砂災害防止、地震減災等といった機能と、緑豊かで都市住民を魅了する付加価値がある。

※3 SDGs推進を論理的に説明するのではなく、共感が生まれるデザインや事業を通して幅広い世代に訴求する手法を言う。格式ばらず、SDGs事業に気軽に来場、参加したくなる機運を醸成する。

※4 内閣府は、毎年、自治体によるSDGsの達成に向けた取り組みを公募し、優れた取り組みを提案する都市を「SDGs未来都市」として最大30程度選定。また、特に先進的な取り組みを「自治体SDGsモデル事業」として10程度選定する。選定された都市に対し、国は取り組みの円滑な実施に向けて、各省庁の支援施設活用等の助言や、国内外への成果の発信等を行い、総合的な支援を行う。

農業公園の「今」

防災とレジャーにカトラバルという
新しい旅の提案

農業公園は、東海地区最大級100種類4500本の梅林で知られる。雪化粧した藤原岳をバックに、梅が咲き誇る様子はまさに絶景だが、元は荒廃農地だった。

地域の高齢者が設計図なしでゼロからつくり出し、手入れを続けているSDGsの先駆けのような場所だ。

いなべ市ではこの農業公園にカトラバルが手軽にできるよう、トレーラーハウスやドッグラン付きのコテージ、電気が利用できる車中泊エリアを整備するなど、新たなグリーンインフラ施設周辺の活用を進める。

平時は、自然豊かな観光に利用される一方、災害時にはカトラバルの敷地や、車中泊のスポットがペット同伴で避難できる施設となる。

この整備は、低コストで環境に負荷の少ないインフラで、コロナ禍におけるニューノーマルのSDS旅行の基盤と位置付けることができる。

災害時に特に配慮が必要なのは、幼い子どもや障がいがある人、高齢者だけではない。いつもそばにいて、癒してくれるペットもそうだ。

もしも何かがあった時、家族であるペットにも優しいこの施設は、2021年度にオープン予定だ。

Profile



諸岡 良治

Yoshiharu Morooka

宇賀溪観光協会 宇賀溪観光アドバイザー
竜の森林保全の会会員 / 木育インストラクター

約10年前から間伐やイベントなど、幅広く森の活動に携わる。宇賀溪観光アドバイザーとして、山登りやハイキングをしながら宇賀溪の魅力を伝え続ける。



川瀬 美緒

Mio Kawase

宇賀溪観光協会

大学卒業後、自分を見つめ直すため1年間デンマークへ留学。帰国後、横浜市からいなべ市へ移住。2021年4月より、宇賀溪観光協会の一員として始動。



中世古 真央

Mao Nakaseko

いなべ市役所 企画部政策課

広報秘書課で情報誌を作成し、2020年4月に政策課へ。現在は、アウトドアの活動支援、フェアトレード取り組み支援やグリーンクリエイティブいなべの推進を行う。

鼎談場所

桐林館喫茶室

いなべ市北勢町阿下喜1980

《営業時間》13:00 ~ 16:00 ※木曜 ~ 日曜 営業

音声を使わず、フラットなコミュニケーションを提案する「筆談カフェ」として営業中。

毎月第3金曜は手作り雑貨、スイーツ、野菜、アート等内容盛りだくさんの kinari market を開催。

tripartite talk / 鼎談

私たちが日々暮らすいなべは、 どんなまちだろう。

自然を愛する諸岡さん、横浜から移住した川瀬さん、市役所で働く中世古さん。

年齢や育ってきた環境、活躍する場も異なる3人が、各々の考えや視点で

今のいなべについて思うこと、描く未来について語っていく。

価値観が変わり たどり着きたいいなべ。

中世古…川瀬さんは、いなべに移住されてどれくらい経ちましたか？

川瀬…もうすぐ5ヶ月です。(取材当時)

諸岡…すっかり馴染んでいますよね。

川瀬…人も温かいし、大好きな自然もあるんで、バランス良く過こせています。

中世古…なんだか嬉しいですね。

諸岡…本当に。川瀬さんは、宇賀溪にできるキャンプ場を盛り上げていく仲間ですが、よくぞ来てくれたと思います。

中世古…素敵ですね。移住しようと思ったきっかけは何だったんですか？

川瀬…海外留学です。以前は横浜に住んでいて、大学卒業後にデンマークへ留学しました。自分の好きなこと、本当に

やりたいことは何かを探すための学校です。そこで価値観が変わり、都会で暮らす選択肢がなくなりました。そんな時に、いなべに新しくキャンプ場ができる、その場所が祖父の家からものすごく近いと知って、これはもう呼ばれたな、と思いつく移住を決めました。

諸岡…川瀬さんのお話を聞いた時、ご縁いただいたな、と思いましたね(笑)。

中世古…そのタイミングはすごいんですね。留学で得た価値観を教えてほしいです。

川瀬…今まで物質的なモノ、お金が大切だと思っていました。でも、本当に大切なことは人とのつながり、環境に配慮した生活だと気づきました。デンマーク人は、日々の暮らしから幸せを見つけ出すのがすごく上手で。それを体感できたことで、幸福度がすごく高まりました。

諸岡…僕も会社員のとき、静岡に1年、

やりたことは何かを探するための学校です。そこで価値観が変わり、都会で暮らす選択肢がなくなりました。そんな時に、いなべに新しくキャンプ場ができる、その場所が祖父の家からものすごく近いと知って、これはもう呼ばれたな、と思いつく移住を決めました。

諸岡…川瀬さんのお話を聞いた時、ご縁いただいたな、と思いましたね(笑)。

中世古…そのタイミングはすごいんですね。留学で得た価値観を教えてほしいです。

川瀬…今まで物質的なモノ、お金が大切だと思っていました。でも、本当に大切なことは人とのつながり、環境に配慮した生活だと気づきました。デンマーク人は、日々の暮らしから幸せを見つけ出すのがすごく上手で。それを体感できたことで、幸福度がすごく高まりました。

諸岡…僕も会社員のとき、静岡に1年、

心から愉しいと 思うことをしたい。

川瀬…諸岡さんは、森や自然を守る活動はいつから始めたのですか？

諸岡…森を守るって大袈裟やなあ(笑)。

僕はただ、自然が好きなので大袈裟です。活動自体は10年くらいですかね。

中世古…働きながら、森の活動もしていたってことですか？

諸岡…はい。会社員の時は、休日に山登りしたり、研修や講習会に参加していました。趣味でパラグライダーも20年程していました。上空からまちを見ると、悩まなくていいやなあって思うんです。

中世古…本当に自然がお好きなんですね。

諸岡…会社員の時は息苦しいことが多かったんです。そんな時山へ行くと、モヤモヤが吹き飛んでいって。自分の人生もって好きなことを愉しみたいと思い、56歳で早期退職したんです。妻も理解してくれて、今でも側でしっかりと支えてくれているので、本当にありがたいです。

中世古…そうなんですね。退職後、本格的に森の活動をされたんですね。

諸岡…はい。山登りや、間伐して余った木でボールペンを作ったり。その中で楽しい仲間がどんどん増えて行くので、すごくワクワクしますね。

も環境に配慮しているか、SDGsの視点で取り組めたらいいのかなと思います。

中世古…転換期、それはすごく感じます。

諸岡…これからは、お金で買えない、豊かさを意識するのが大事だと思います。

川瀬…豊かさってなんだろう？と考えるんですけど、答えが出ないです。

諸岡…その人の感じ方次第ですね。

中世古…確かに、豊かさって難しいですね。本当にいろんな価値観があって。でも、全部の価値観が認められるといいですね。お互い認め合い、誰も排除されないまち。それで、いなべで働き、暮らし続けたいと思う方が増えると嬉しいですね。



未来へとつながる場所を 丁寧に育む。

川瀬…いなべはSDGs未来都市ですよ。中世古…はい。昨年7月に未来都市として選ばれて、自治体モデル事業も取り組んでいます。これからまちぐるみで活発になったらと思います。普段、SDGsを意識して活動されていますか？

諸岡…宇賀溪一帯は、環境省が選定した「生物多様性保全上重要な里地里山」として位置づけられています。そこで、川瀬さんと一緒に、次世代へと続く場所を作ろうと計画中なんです。

中世古…それはどんな場所ですか？

川瀬…宇賀溪の自然を伝える、ネイチャーセンターです。そこにプラスαとして、いなべの魅力発信、また様々な人が集い、出会えるような機能も持たせられたらと思います。さらに環境に配慮して、子どもたちの新しい価値観や、未来を考える場にもなればいいなと思います。

中世古…子どもたちが、宇賀溪に行きたいと思うにはどうしたらいいですかね？

川瀬…今考えているのは、これから作っていく場所に子どもたちの声を取り入れていきたいということです。自分からや

諸岡…ありますね。それが楽しいね。

中世古…私は、つながりたい時に、間に入る役割でいたいと思っています。架け橋になるのも、重要な役割なのかなと。紹介した方が仲良くなったり、いつの間にかつながっていると嬉しいですね(笑)。

川瀬…好きなことをして暮らしたいけれど、不安もたくさんあります。そんな時に相談できるのは、ありがたいです。

諸岡…僕も頭を抱える時があるので、丁寧に話を聞いてくれるのはありがたい。

川瀬…いなべは点がつながって線になるのが早い感じがいて思っています。

中世古…すぐ答えを出すのが難しい時もあります。ですが、お話を聞いて、何かお手伝いできればいいと思っています。

川瀬…楽しみながら、環境のことを伝えていきたいですね。いなべだからこそできることがあると思います。

諸岡…小回り効くからねえ。

川瀬…そうですね、小回りも効くし、少しずつやっていけば、絶対サステイナブルなまちになっていく。そこにはやっぱり行政の方のお力が必要だと思います。

諸岡…よろしくお願いします(笑)。

中世古…こちらこそ(笑)。人にも、環境にも優しいまち、目指しましょう。



面白いつながりが 生まれる。

中世古…そういえば、川瀬さんは移住を決めた時、どこに相談しましたか？

川瀬…地域おこし協力隊の方です。移住相談のメールをしました。真摯に対応してくださり、タイミングよく来て、どんな人となつてくれることができました。

中世古…いなべって、不思議なつながりが急に起こったりしますよね。



鼎談を終えて

活躍する場はそれぞれでも、自分らしく生きる場所を見つけている。それは3人とも同じ。自然が好き、人と人をつなげていくのが嬉しい。どれも必要で、大切なことです。そして、美しく情緒あふれるいなべの自然は、諸岡さんがおっしゃったように、意識をしているわけではなく、暮らしの習慣から成り立っているのだと改めて思いました。だから気持ちのいい日々を送れる。習慣を大切に、新しいものを取り入れてうまく調和していけば、訪れた人もずっと暮らしやすい、きっと心が潤う。いなべには魅力がたくさんある。そんなことを感じた時間でした。

文・山下 佳苗

十四歳

NOWTO



わたしを
つなぐもの

私は生まれてからの7年間を四日市で過ごしましたが、週末には祖父母に連れられて鼎（かなえ）に遊びにきていました。春には梅林公園に行つて梅を見たり、夏には蝉の鳴き声を聞きながら涼しい風に吹かれて眠ったり、秋には裏山の紅葉を眺めたり、冬には積雪でかまくらを作ったり……。鼎の地でしか感じるこのできない経験に、いつも胸を躍らせていたのを憶えています。

小学校3年生から鼎に引っ越してきて、今の友達に出会いました。最初の頃は名前も学校のルールも分からなくて不安でした。でもみんなと授業を受けたり、花や野菜を育てたり、私が困っていると、手を差し伸べてくれる仲間がいて、同じ時間を共有する中で、次第に打ち解けることができました。小学校5年生からは藤原小学校に合併したので、よりたくさんの仲間に出会うことができました。新しい環境で戸惑いもあったけど、辛いことや楽しいことを分かち合いながら毎日楽しく過ごしていました。近

所の方からは、餅つきや蕎麦打ちやかかし作りなど新しいことへの挑戦をたくさんさせてもらいました。私の名前を呼んでくれて「大きくなったね」などいつも優しく声をかけてくれました。一緒に料理を作ったり、散歩をしたり、私にとってすごく幸せな時間だったことを憶えています。

中学生になって、一番の大きな変化は、私の心でした。先生や部活の先輩と過ごす中で、人とのかわりを強く感じました。合唱発表会では、ピアノ伴奏に挑戦しました。仲間と一から創り上げてきた合唱、本当に素敵な時間を経験することができました。私は今、充実した生活を送れていると思います。それはいつも楽しく過ごすことで、暇だと思ふ瞬間があまりないからかもしれません。日々、勉強や部活、生徒会活動などに取り組み、仲間や先生方と接する中で、自分の考えや感情がせわしく動いているのを感じます。

勉強は次第に難しくなり、諦めてしま

そうになります。だけど班での交流や先生の解説で理解できたときは達成感があるし、次の課題に挑戦しようとする向上心も湧いてきます。学んだ知識は、どこかで自分を助けてくれるはずだから、将来のためにも今は積極的に勉強しようと思います。部活では上手くできなくて悔しい思いもしますが、仲間の声かけに励まされたり、自分なりに考えたりしています。強くなりたいという気持ちや、勇気をもってやってみようという姿勢は、部活動から学んでいると感じます。だから日々の部活動は精神的な成長につながっていると思います。

生徒会活動は初めてのことばかりで、日々手探りです。自信がもてないこともあるけど、私たちの意見に賛同してくれたり、アドバイスをくれる仲間や先生方がいます。私一人でやっているわけではない、全校のみんなが生徒会で、藤中をよりよくしていくことに前向きです。私は人前で話すことや自分から発信することが苦手です。だから話す内容を練習したり、空いている時間に学校の取り組みについて考えたりしています。そうやって自分の壁を越えていけると信じて、周りの人の支えに感謝しながら頑張っていきたいです。

私は将来、教師になりたいと思っています。それは日々の学校生活の中で関わってくれる先生方の影響が大きいです。いつも楽しく話をしてくれて、授業も面白いし、

忙しい中でも生徒一人ひとりと向き合ってくれる先生の姿に憧れをもっています。私は勉強を教えるだけでなく、信頼され、気軽に相談や話ができるような、親身になって子どもたちと接することができる先生になりたいです。

夢を追いかける中で、この藤原を出なければならぬかもしれません。でも今はまだこの地で仲間や家族、地域の方々と接しながら色んなことを学んでいきたいです。

藤原の自慢は自然が豊かな所です。季節によって様々に変化する景色を見ると、生命の尊さを感じます。空がとても広くて、森林が奥へ奥へと無限に続いていく感覚になります。この先、どんな景色を私にたくさん見せてくれるのだろうと思うと、胸が高鳴ります。

しかしこの豊かな自然がずっと存在するかは分かりません。SSSの目標の中には「陸の豊かさを守る」ことが掲げられています。藤原の自然を未来に受け継ぐため、私にも何かできることはないかを考えなければならぬと思います。地域では藤原クリーン作戦など、みんなの環境を守るための活動が続いています。私も将来は、この大切な故郷を守るために活動をしていきたいと思っています。

そのために今はこの藤原中学校で仲間との絆を深め、色々な知識を得て、経験を積み、自分を成長させていくことが大切だと思っています。

inabe NOWTO は、
いなべ市の皆さんと共に《まち》を
つくっていく感覚で、
アイデアを出し合って、
共につくりあげていくコンテンツの
ひとつとして、生まれました。

このまちの未来のために、
皆さんの《声》をぜひ、届けてください。

募集

No. 1

あなたのSDGsな
“いなべ暮らし”教えてください。

inabe NOWTOでは、SDGsを軸とした市内での取り組み
などを特集し、掲載していく予定です。
普段、皆さんが取り組んでいるSDGsなものの、ことを教
えてください。

No. 2

inabe NOWTOで
取り上げて欲しいこと。

No. 3

inabe NOWTOでは、共にこの
媒体をつくってくださる方を
常時募集していきます。

どんな形で関わっていただけるかを明記いただき、
ご応募ください。

(例)
カメラマン、ライター、イラストレーターとして関われる...など

応募先

- ① メール info@inabe-gci.jp
- ② 郵送または持ち込み

〒511-0498 いなべ市北勢町阿下喜31番地
いなべ市役所 2階
グリーンクリエイティブいなべ事務局
※持ち込みの場合の受付時間：平日9:00-17:00

【お問い合わせ】
(一社) グリーンクリエイティブいなべ
TEL：0594-72-7705



天井には海で拾った流木とツルをつなぎ合わせたオブジェが。麻帆さん（写真中央）の作品。S/O/Lのシンボル、守り神のような存在。天井には海で拾った流木とツルをつなぎ合わせたオブジェが。麻帆さん（写真中央）の作品。S/O/Lのシンボル、守り神のような存在。

Interview 今をしっかりと見据え、未来へ歩き出した人々 SENSE/OF/LIGHT 【センスオブライト】

外まで香るコーヒーをセットし、お店の中を整える。
スケジュールを確認し、楽しそうに準備する3人の姿が。
彼らが作った大切な場所へ足を運んだ。



2020年12月23日オープン。外装はもちろん、内装も麻帆さんが手がけたもの。入り口ドアには綺麗な模様のペイント、雑貨が見やすい温かみのある木棚など、シンプルの中に遊び心と気遣いを感じられる。

いなべ市員弁町、閑静な住宅地。倉庫として使用していた建物に新たな息を吹き込み、こだわりの雑貨が並ぶ店「SENSE/OF/LIGHT（以降「S/O/L」）へ形を変え、2020年12月にオープンした。

店内に入り笑顔で迎えてくれたのは、社長の太田麻帆さん、総務の太田麻央さん、そして雑貨担当の竹嶋清美さん。マスクは必ず。がまだまだ続く今、顔があまり見えない中でのお話は少し寂しい気もしたが、それも払拭される程、全身から伝わる元気で明るい雰囲気。温かい歓迎モードに一瞬で心を掴まれた。

サンライトとして塗装業を営む、太田夫妻が新事業で雑貨屋を始めることに。

倉庫は麻帆さんが木工作品を制作するなど、趣味で使用していたが、いつかは工房を構え、自分の作品を見たり購入できる場所を作りたいと考えていたそう。それは雑貨にもつながると気づき、改装を決意。そんな想いを知った麻央さんが、友人の清美さんに声をかけたのだ。

「ひとりで雑貨屋をしたいと考えていたけれど、難しい部分もあって諦めていたんです。そんな時に誘ってくれて、迷いなくやりたい、と返事をしました」と清美さん。2人の出会いは子どもが通っていた保育園。お互い「目で「気が合いそう」と運命を感じたそう。まとめるのが上手で、しっかり者の麻央さん。接客と雑貨が大好きな清美さん。2人の性格、関係性を知り、全てを受け止める麻帆さん。何だか3人のバランスが絶妙ですね、そう聞いかけると「みんな得意なことがあって、その強みを理解し、活かしているからかな」と、認め合い、尊敬し合う姿がとてもナチュラルで、心地よく感じた。

「好きなものばかりですが、どんな世代の方にも楽しんでもらいたい」清美さんが選ぶ雑貨は、生活用品から輸入もの、ヴィンテージ、作家さん手作りのアクセサリーやベビーグッズ、雑貨の他にいなべプリン店のプリンまで幅広く、たくさんの物語とご縁が合わさったたり着いたもの。光を浴びて、それぞれの個性



その場で丁寧にドリップしてくれる。コーヒーの他にも数種類のドリンクを提供。



文房具など、さらに雑貨を増やしてみんなに楽しんでもらいたい。と楽しそうに話す清美さん。

オープンから数ヶ月。自分のお店のよう
に紹介してくれて、何度も足を運んで
くれる人がいる。すでにたくさんの人か
ら愛されている「S/O/L」。実はオープンを決
めたのは昨年8月のこと。わずか4ヶ月
で一気に準備し、カタチにした。

SENSE/OF/LIGHT

暮らしに光を、一人ひとりの感性を。

「コロナ渦で諦めることが多くなってし
まったけれど、始めることで誰かの光と
なればいいな。雑貨を持ち帰り、ほっこ
りしてもらえたらすごく嬉しい」

そう言って笑う麻央さん。その隣でう
なづく清美さん。一気に駆け出したのは、
今だからこそ、未来へと続く光を灯した
い。そんな想いもあったのだ。

営業時間は9時30分ー15時30分まで
と、少し短め。「S/O/L」が大好き。同じく
い子どもや家族との時間も大切。どちら
かに偏り家事や仕事が投げやりになるの
は嫌だから、という想いで決めた。子ど
もが成長したら状況も変わる。その時に



雑貨は清美さんに、麻帆さんは有言実行するので任せてます！と元気で頼もしい麻央さん。

ベストだと思う方法で変化し、協力でき
る環境を整える。そんなスタイルでいた
いと麻帆さんも言う。

「僕は独立した時、ずっと孤独でした。
でも、仲間が増えて、仕事もうまく回っ
ていくようになって。今があるのは、関
わってくれたみんなのお陰です。我慢せ
ず、アイデアを出し合いながら尊重し、
想いを反映させて仕事をしたい。それで
いなべで面白いことしてるな」とS/O/L
も塗装業も知ってもらえたら嬉しい。地
元間での仕事やコミュニティが増えたら
もっと嬉しいです」

今後は「S/O/L」を活かしたハンバーガー
屋のオープン計画中だという。

「才能や可能性、夢がある人も1人だと悩

んで、諦めてしまうことが多い。そんな
人たちと、これからもいろいろな展開、
挑戦をしていきたいです」
そして、大切にしている言葉を教えて
くれた。

「今を楽しむ、今の感覚を大切に、
今できることを」

運命的なことが起こり、必然的に出会っ
た3人。今、心から楽しいと思えるのは、
想いを実現することを諦めなかったから
だろう。「今しかできないことって本当に
たくさんある！」そう言っていて楽しく挑
し続ける姿に、また、心を掴まれた。

あなたにとって本当に大切なこと、生
活を豊かにしてくれるものとは、なんだ
ろう。もし考えていたら「S/O/L」を訪れる
ことでヒントが見つかるかもしれない。
心に寄り添い、光を灯してくれる何か
に出会えることを願う。

そこで感じた、あなたの感性を大切に。

(文・山下 佳苗)

Profile

太田 麻帆
Mao Ota

(株) サンライト 代表取締役社長。
塗装業、S/O/Lの企画・運営を
行う。店内では主に美味しいドリンク
を提供し、合間に木工作品を制作。
作品は一部店内で販売中。

太田 麻央
Mao Ota

S/O/Lの総務。麻帆さんとの結婚
を機に同じ名前に。周りから「ま
まお夫妻」と呼ばれるおしどり夫婦。
縁の下での力もちとして会社を支
え続ける。

竹嶋 清美
Kiyomi Takeshima

雑貨担当。鈴鹿から嫁ぎ、いなべ
の人に。雑貨販売の経験を活かし
発注から仕入れまで全て行う。接
客と雑貨が大好き。

SENSE/OF/LIGHT

いなべ市員弁町上笠田1903-1 《営業時間》9:30-15:30 《定休日》土・日・月曜 《TEL》0594-74-5007